

2015年3月22日 主日礼拝

説教「十字架への道」

マタイの福音書 26 章 47-56 節

【イスカリオテのユダへの愛】

十字架をめぐるできごとの中で最も暗い闇は、ユダの口づけかもしれません。当時のユダヤでは、男同士でくちづけして、あいさつしました。心からの愛をあらわす行為なのですが、ユダはその口づけを用い主イエスを裏切ったのでした。主イエスは、もちろん、ユダの裏切りも、すべてをご存じでした。けれども、主イエスは、ユダの口づけを受けられ、ユダを「友よ」(50)と呼んでくださったのでした。すでに裏切ってしまったユダを、なおも拒まず、赦して受け入れてくださっているのです。

【下からの愛、後ろからの愛】

私たちは、いつも神さまに顔を向けていられるわけではありません。ユダも後になって、自分のしたことがわかり、自らのいのちを断ってしまいました。

けれどもある人は、主イエスの愛は下からの愛、後ろからの愛だ、と言います。私たちは顔向けできないで、神さまの上からの愛、前からの愛から逃れようとします。自分を隠そうとするのです。

しかし、神さまは、私たちが顔をそむけたぐらいでは、愛することをおやめになりません。私たちが背を向けて立ち尽くしていても、主イ

エスは後ろから、抱きしめてくださいます。私たちが自分に絶望して倒れていても、気がつく主イエスが私たちの下敷きになるようにして、地面との間に入ってくださるのです。

ユダの問題は、主イエスの下からの愛を忘れたことにあります。裏切り者のユダを赦してくださる愛を信じなかったのです。主イエスの下からの、後ろからの愛を信じることができなかったのです。私たちも主イエスに愛されています。自分で最低だと思ふ、その私たちが愛されているのです。下から、後ろから。

【恐れるペテロへの愛】

イエスの下からの愛、後ろからの愛を忘れてしまったのは、ペテロも同じです。剣でひとりの耳を切り落としたのです。ペテロが勇敢だから剣を振り回したと思う人はだれもいないでしょう。恐れたからです。人間はこわいときに、よくこういうことをします。主イエスのためさえなく、ペテロは自分のために、自分のおそれを打ち消そうと剣を振り回したのでした。

私たちもまた、しばしば恐れにつかまえられてしまいます。怯えて愛することを忘れてしまうのです。自分が人から認めてもらえないのではないかという恐れ。自分の居場所がなくなるのではないかという恐れ。そういう恐れにつかまえられて、私たちも言葉の剣を振り回し、まわりの人に切りつけるのです。

けれども、私たちは、主イエスに下から、後

ろから愛されています。怯えながらも主イエスに抱かれています。だから怯えながらも、自分に害をなす人のためにとりなし、愛することができるのです。

【一瞬一瞬の奇蹟】

主イエスは、悩み、恐れながらも父の愛の中におられました。下から、後ろから支えてくださる父の愛の中におられて、「こうならなければならないと書いてある聖書」(54)を実現してくださいました。弱い人となられた主イエスが、父のみこころ通りに生き、父のみこころ通りに死ぬという奇蹟がおこったのです。

すべての信仰者の模範は、主イエスです。主イエスがゲッセマネから十字架までの死にいたるまで耐え抜き、愛することができたのは、一瞬一瞬奇蹟が起こったから。父が、一瞬一瞬奇蹟を起こし続けてくださったからです。下からの愛による奇蹟なのです。

私たちがキリストのように愛することができるとすれば、それは強い信仰者になることによってではありません。神さまの力を必要としないような信仰者になることではないのです。恐れて、気を失いそうになりながらも、主イエスの愛が下から支えてくださっていることを忘れないなら、一瞬一瞬、自分でも自分の愛に驚きながら生きることができるのです。強い信仰者ではない弱い私たちが、愛することができるのです。